

館種、立場超え連携を

鳥取県図書館大会 講演や事例発表

「人の成長を支える図書館」をテーマに第19回鳥取県図書館大会（県図書館協会主催）が30日、鳥取市内で開かれた。学校、公立図書館などの司書、読みの在り方を学んだ。事例発表では、学校図書館や町立図書館、ボランティアなど本や読書に関わるさまざまな立場を超えた活動事

例について、司書や館長ら4人が発表。

このうち絵本の読み聞かせや作家交流に取り組んでいる「え本の会 梶」の松田和代

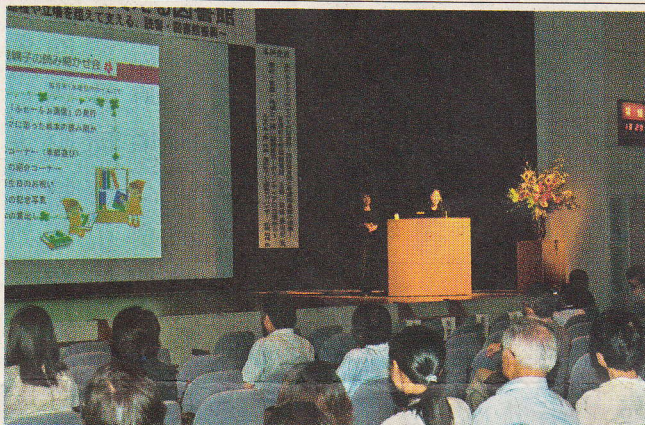
代表は、小中学校の授業や市立図書館との活動を通して「無理をせず、自分自身が楽しむことが生かがいにな

る」とボランテニア継続の秘訣を紹介。

保育所・学校・地域で読書推進に取り組んだ日野町図書館の松田暢子館長は「子ども読書推進計画」を策定したことで「それぞれの活動につながりがあり、町全体として課題

が、人の輪が広がる」と成果を披露した。

このほかにも記念講演やワークショップが開かれた。



町立図書館や地域のボランテニアなどさまざまな取り組みが紹介された鳥取県図書館大会＝30日、鳥取市のとりぎん文化会館小ホール